

八戸港コンテナ定期航路就航状況(2021年2月現在) □ 外航 □ 国際フィーダー

コンテナ航路	船社名(日本総代理店)	集荷代理店	寄港間隔	寄港地
中国・韓国航路	南星海運(株) (南星海運ジャパン(株))	八戸港湾運送(株)	週2便 (月・木)	(NTP航路) 釜山(火)→常陸那珂→小名浜→仙台→ 八戸(月) →釧路→ 苫小牧→酒田→釜山(日・火)→蔚山(火)→光陽(水)→ 上海(金・土)→寧波(日)→釜山(火)
	高麗海運(株) (高麗海運ジャパン(株))	ナラサキスタックス(株) 八戸支店	※共同配船	(NBP航路) 釜山(日)→常陸那珂→仙台→ 八戸(木) →釧路→苫小牧→ 秋田→蔚山(木)→釜山(土)→光陽(日)→大連(火)→ 天津新港(水)→釜山(土・日)
韓国航路	長錦商船(株) (株)シノコー(株)	八戸通運(株)	週2便 (火・金)	(THS2航路) 釜山新港(木)→釜山(金)→仙台→ 八戸(火) →苫小牧→釜山/釜山新港(土・日)→富山新港→ 直江津→新潟→秋田→酒田→釜山/釜山新港(月・木)
	興亜LINE(株) (株)シノコー(株)	北日本ポート サービス(株)	※協調サービス	(THS3航路) 釜山新港/釜山(土)→徳島→清水→鹿島→ 常陸那珂→仙台→ 八戸(金) →釜山/釜山新港(火) →苫小牧→釧路→石狩湾新港→釜山/釜山新港(木・土)
北米航路	Westwood Shipping Lines (株)センワマリタイムエージェンシー(株)	八戸港湾運送(株)	休止中	シアトル・バンクーバー・釜山ほか
国際フィーダー 航路	株横浜コンテナライン	八戸通運(株)	週1便(金)	横浜・仙台・宮古・苫小牧
	井本商運(株)	八戸港湾運送(株)	週1便(土)	横浜・東京・苫小牧・仙台
	鈴与海運(株)	八戸港湾運送(株)	週1便(火)	横浜・苫小牧

主な寄港地と八戸港の所要日数(最短)(2021年2月現在)

寄港地	輸出	輸入
釜山(韓国)	6	4
光陽(韓国)	9	※
蔚山(韓国)	7	※
基隆(台湾)	9	16
台中(台湾)	10	16
高雄(台湾)	11	16
香港(中国)	14	13
大連(中国)	12	9
青島(中国)	15	11
上海(中国)	11	9
天津新港(中国)	13	7
寧波(中国)	13	8

寄港地	輸出	輸入
蛇口(中国)	16	18
シンガポール	19	20
レムチャパン(タイ)	17	17
マニラ(フィリピン)	13	16
ホーチミン(ベトナム)	15	15
ハイフォン(ベトナム)	16	18
タンジュンプリオク(インドネシア)	16	22
ムンバイ(インド)	25	25
ポートクラン(マレーシア)	19	19
ドバイ(UAE)	28	22
タコマ(米国西岸)	21	21
ロングビーチ(米国西岸)	18	18

寄港地	輸出	輸入
シアトル(米国西岸)	21	21
ニューヨーク(米国東岸)	38	38
バンクーバー(カナダ)	23	19
ブリスベン(オーストラリア)	31	21
オークランド(ニュージーランド)	40	28
サウサンプトン(イギリス)	29	35
ルアーブル(フランス)	30	35
ブレーメルハーフェン(ドイツ)	32	35
ハンブルク(ドイツ)	43	44
ロッテルダム(オランダ)	41	42
アントワープ(ベルギー)	41	49

※光陽・蔚山(韓国)については、釜山にまとめた後に輸入されています。

八戸港ご利用のお問い合わせは次の各社へ!

海貨業者

- ◆八戸通運株式会社 海運部
(株)シノコー(株)横浜コンテナライン 集荷代理店
TEL:0178-29-0202 FAX:0178-20-3281
- ◆八戸港湾運送株式会社 コンテナ事業部
(南星海運ジャパン(株)、WSL、井本商運(株)、鈴与海運(株)、
オリエントオーバーシーズコンテナラインリミテッド
(OOCL)日本支社、
インターエイシアライン(株) 集荷代理店)
TEL:0178-29-3177 FAX:0178-29-3130
- ◆新丸港運株式会社 営業部
TEL:0178-20-2325 FAX:0178-20-2356
- ◆八戸運輸倉庫株式会社 営業部
TEL:0178-28-2401 FAX:0178-28-6976
- ◆三八五流通株式会社 八戸区域事業所
TEL:0178-52-7755 FAX:0178-52-7751
- ◆日本通運株式会社八戸支店
TEL:0178-20-3040 FAX:0178-20-3154
- ◆ナラサキスタックス株式会社八戸支店
(高麗海運ジャパン(株) 集荷代理店)
TEL:0178-21-6000 FAX:0178-21-6050
- ◆北日本ポートサービス株式会社
(SITC JAPAN(株)、三栄海運(株) 集荷代理店)
TEL:0178-20-2148 FAX:0178-29-3130

海運会社(国内総代理店)

- ◆南星海運ジャパン株式会社 【東京都】 中国・韓国航路 TEL:03-5843-6100 FAX:03-5843-6110
- ◆高麗海運ジャパン株式会社 【東京都】 中国・韓国航路 TEL:03-3500-5051 FAX:03-3500-5095
- ◆株式会社シノコー(株) 【東京都】 韓国航路(長錦商船(株)) TEL:03-6278-6032 FAX:03-6278-6038
(興亜LINE(株)) TEL:03-3273-4981 FAX:03-3281-8605
- ◆センワマリタイムエージェンシー株式会社 北米部 【東京都】 WSL:北米航路
TEL:03-5733-7203 FAX:03-5733-7208
- ◆株式会社横浜コンテナライン 【横浜市】 国際フィーダー航路(横浜)
TEL:045-227-8863 FAX:045-681-8885
- ◆井本商運株式会社 【神戸市】 国際フィーダー航路(東京・横浜)
TEL:078-322-1600 FAX:078-322-1620
- ◆鈴与海運株式会社 【静岡市】 国際フィーダー航路(東京・横浜)
TEL:054-354-3100 FAX:054-354-3102
【東京営業所】 TEL:03-3432-7159 FAX:03-3432-0896
- ◆オリエントオーバーシーズコンテナラインリミテッド(OOCL)
日本支社【東京都】インド・東南アジア航路(横浜港トランシップ)
TEL:03-3493-6001 FAX:03-3493-6405
- ◆インターエイシアライン株式会社 【東京都】 東南アジア航路(横浜港トランシップ)
TEL:03-3580-6555 FAX:03-3580-6575
- ◆SITC JAPAN株式会社 【東京都】 中国・アジア航路(横浜港トランシップ)
TEL:03-6262-7778 FAX:03-6262-7117
- ◆ジャパン・パン・ラインズ株式会社 【東京都】 小口混載貨物サービス(輸出)
TEL:03-6779-9610 FAX:03-6779-9650
- ◆イーキューワールドワイド株式会社 【東京都】 小口混載貨物サービス(輸出入)
TEL:03-5643-3600 FAX:03-5643-3606



八戸港国際物流拠点化推進協議会

Hachinohe Port Promotion Commission

事務局 / 八戸市商工労働観光部商工課 貿易振興グループ

〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1 八戸市庁別館5階 TEL.0178-43-2111(代表) TEL.0178-43-9244(直通) FAX.0178-43-2256

(E-mail) hppc@hachinohe-port.org (ホームページ) https://hachinohe-port.org/

2021年2月発行 第50号

発行所 八戸港国際物流拠点化推進協議会

企画編集(株)テクノス

もっとすごい!

PORT OF HACHINOHE

2021年2月発行 NO.50

ハチヨウ

八戸港だより

ポート博士



TOPIX

- P2・RORO 船定期航路
新たに八戸港への寄港を開始
・みなと通信
- P3・八戸港新フェリーターミナルビルの建設について
・新造船フェリー「シルバーブリーズ」
6月就航予定
- P4-5・八戸から世界へ! 未曾有の事態に屈せぬ
オンリーワンなブランド創出!
・オンライン商談会を開催
~ASEAN向け通年マッチング 支援事業
- P6・2020年八戸港コンテナ貨物取扱量統計(速報値)
- P7・世界とともに生きる視点
- P8・航路情報、各お問い合わせ先等

RORO船定期航路 新たに八戸港への寄港を開始

文 / 八戸港国際物流拠点化推進協議会 書記 和島 将彦

オーシャントランス(株)と栗林商船(株)が運航するRORO船の定期航路において、令和2年12月1日から、八戸港への寄港が開始されました。王子ホールディングス(株)と三菱製紙(株)の業務提携に伴う物流合理化の一環として開始されたものです。

同航路は、これまで北海道苫小牧と東京の往復が運航されていましたが、そのうち南下便(東京行)で、八戸港へ寄港(毎週月曜日)します。荷主など利用者にとって物流の選択肢が広がることで、八戸港の更なる利便性向上が期待されます。

1. 航路 苫小牧(日) ⇒ 八戸(月) ⇒ 東京 ⇒ 苫小牧
2. 接岸場所 八戸港八太郎P岸壁
3. 寄港船舶

船名	総トン数	貨物積載量	運航会社
海王丸	13,633トン	13mシャーシ192台	オーシャントランス(株)
天王丸	13,624トン	13mシャーシ192台	オーシャントランス(株)
神王丸	13,620トン	13mシャーシ192台	栗林商船(株)

初入港日の12月1日は、栗林商船(株)の「神王丸」が入港し、八戸市(大平副市長)、三菱製紙(株)、八戸港運送(株)から、片山船長へ記念品の贈呈を行い、八戸港における新たな航路開設を歓迎しました。



副市長記念品贈呈



集合写真

【参考】 その他RORO船定期航路の状況

航路名	船社名	便数
川崎航路	プリンス海運(株)	週2便(火・木)
名古屋航路	(株)フジトランスコーポレーション	4日に1便

RORO船とは…「RORO」はロールオン・ロールオフの略。大型ランプウェイが搭載されており、トレーラー等が船内までそのまま乗り降りすることができ、トラック自体またはヘッドから切り離れたシャーシ(荷台)を運搬する貨物船のこと。

八戸港では、港の中央に位置する馬淵川河口部からの流下土砂が堆積し航路泊地の水深が減少することを防ぐため、国直轄事業により浚渫工事を行っています。併せて、この浚渫土砂を安定的に処分するため、市川地区において土砂処分場の整備を行っています(写真)。

この市川土砂処分場整備は、2工区に分割して整備を進めています。I期工区は護岸の締め切りを終え浚渫土砂の投入を行っており、現在は残るII期工区の整備を行っています。

なお、この市川土砂処分場は、土砂処分完了後には工業用地としての活用を予定しています。

大型貨物船の安全な航行や荷役効率向上のため、これら浚渫工事や土砂処分場整備を着実に進めてまいります。

国土交通省 東北地方整備局 八戸港湾・空港整備事務所 TEL:0178-22-9391 FAX:0178-45-7239

市川土砂処分場

八戸港新フェリーターミナルビルの建設について

公益財団法人青森県フェリー埠頭公社 八戸支社長 木幡 清明

現在の八戸港フェリーターミナルビルは、昭和57年に建設され、老朽化・狭隘化が進んだことや、ユニバーサルデザイン、インバウンドなど、新たなニーズへの対応の必要性などから、建替えることとしました。

新ターミナルビルのコンセプトは「ゆとりあるフェリーターミナル」、「人にやさしい施設」、「港町八戸の魅力を発信する施設」とし、利用者を最優先に考え、八戸らしさを活かした施設にしたいと考えています。

規模は、鉄筋コンクリート2階建て、延べ床面積2,320㎡(現1,380㎡)で、概算事業費は約17億円となっています。

第1バースと第2バースの間にビルを建設し、左右に羽を広げたような連絡人道橋が特色で、フェリーに直接乗船が可能となります。大型車151台(現141台)、乗用車395台(現352台)と駐車台数を大幅に確保します。



現八戸港フェリー埠頭ターミナルビル

屋上への屋外階段設置、受付や待合室を2階に配置するほか、非常用発電機等を屋上に設置し、防災機能の高い施設とします。バリアフリー化、サインの多言語化、Wi-Fi環境の整備、環境へも配慮した施設とします。供用開始は2024年4月を予定しています。

今後、更なる利便性の向上を図り、八戸港における物流の拠点として、港の発展に貢献していきたいと考えています。



新造船フェリー「シルバークリズ」6月就航予定

八戸ー苫小牧間のフェリー航路で、現在運航中の「べにりあ」の後継として、新造船「シルバークリズ」が今年6月から就航します。本船は、冷蔵冷凍トラック向けの220Vの外部電源を増設するなど食品輸送への対応が強化されると共に、車庫積載能力は、トラック(全長12m換算)で67台から70台へ、乗用車は14台から30台へと向上します。

また、「べにりあ」にはない2人用の特等室やペット同伴室の設置、さらに、個室のグレードを高めるため、利用者1人当たりの面積を広げるなど、客室全体の快適性が高まりました。



シルバークリズ進水式



グレードアップした客室



八戸から世界へ！未曾有の事態に屈せぬオンリーワンなブランド創出！

八戸市海外経済協力員 まつぎ 松崎 まさき 雅樹

あけましておめでとうございます。本年も、どうぞよろしくお願いたします。

年頭にあたり、まずは昨年より続く新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の全世界的な流行により被害に遭われた皆様、また、これに伴う社会情勢の変化により損害を被っておられるすべての方に、心からお見舞い申し上げます。

令和2年6月19日、小林眞市長より八戸市海外経済協力員就任への委嘱状を拝受し、若輩ながら主に八戸市第一次産業におきましての海外販売販路拡大に取り組ませていただいております。本年も引き続き八戸市の皆様のご意見に誠心誠意耳を傾けより一層精進して参ります。

さて、COVID-19は、我々が築き上げてきた社会に大きな変化を強いました。私自身も日本、シンガポール共和国の両国にビジネス拠点を構えA S E A N各国を往来し企業リサーチ、アドバイジングに重きを置く会社を営んでおり、昨年以來未曾有のウイルス蔓延により国、都市をまたいだ移動の厳粛な制限に加え、大規模イベント、広告の延期・中止など、我々が当たり前享受していた日常、行動に制限が課され、多数の企業様との間で共同での働き方改革などに積極的に取り組んだ年でもありました。

このような不安定な世界情勢の中、主にリモートで諸外国の経済復旧状況など独自手法で解析して参りました。厳粛な制限下だからこそできる取り組み、例えば奇しくも埋もれていた八戸市の貴重資源、産業などグローバル目線で紐解き、議論し、各国有識者などとも意見交換を行い強固な将来的貿易体制を構築した事により、今後の課題への取り組み方が明らかになったように思います。

ここで、諸外国の外食産業への変化、取り組み方についてお話しさせていただきます。実例としシンガポール共和国の外食産業はCOVID-19初期段階で政府主導の「サーキットブレイカー」を経験しました。昨年4月から6月初旬まで必須サービスを除く経済活動が一切禁止され、外食産業ほぼ全ての営業が自粛に追い込まれました。事態に対応できず悔しくも廃業に追い込まれる店も続出しました。中には親しい友人で大手外食チェーンの経営者も含まれることから外食産業への甚大な被害が浮き彫りとなりました。しかしながら政府主導

の強固なリーダーシップより3段階に分けた経済活動再開が許可され、ある外食チェーンにおいては消費自粛に対する反発をうまく取り込み前年同月比100%～200%の売り上げを記録するなどV字回復で類を見ない復活成長を遂げている企業もあると聞こえてきます。

シンガポール共和国のみならずA S E A N各国ではGrabfood, Uber eats, Deliverooなどに代表的なフードデリバリーサービスが日本に比べ長く食文化の一部として根付いています。従って、外食産業に対する完全自粛の決定が下った後も非接触型のデリバリーサービスで一部対応するなど官民一体での迅速な対応が外食産業救済の大きな要因でありました。

最後に、今後密に世界中で注目されるであろう八戸市の産物について触れさせていただきます。ずばりそれは「保存食」！！世界でも群を抜く加工技術、更には環境にまで徹底配慮された先進技術において製造される日本のそれが世界で注目されはじめています。缶詰、干物、薫製、冷凍食品など、日本では保存食が当たり前で生活の一部となっています。一方、世界での保存食に対するイメージは、従来緊急時のみ口にする物、更には低所得層向けに配布する物品、食品としてのイメージが先行しており、残念ながら日本で製造された高品質な保存食に対しても同様に間違った理解が根付いてしまっています。日本食見本市など各国にて多数参加しましたが、やはり保存食に関しては海外バイヤーより軽視されていたように感じます。今後未曾有の事態を経験した人類それぞれが働き方改革などを通し、保存食に対する尊さに気づく時期はそう遠くないと感じております。

メイドインジャパンも無論の事、メイドイン八戸を世界の民へ！そんなアジェンダと共に令和3年の尊い年を皆様と共に歩んで参りたいと考えております。



HACHINOHE to play a pivotal role in 2021 to educate, promote and add value to its products.

Masaki Matsuzaki

Hachinohe Overseas Trade Promotion Representative

Hachinohe City, Aomori Prefecture

Greetings and here's wishing everyone a very happy new year 2021!

Firstly, I would like to express my gratitude to everyone who has weathered the storms of 2020, notably, businesses and industries, individuals and families alike. It has been a challenging year fraught with anxiety and uncertainty. The past year has witnessed multiple adjustments in the wake of the Covid-19 global pandemic and its impact, largely felt by many, regardless of age, nationality, race and gender. I remain sympathetic and humbled by the situation and I do hope that the new year 2021 will be brighter and bring restoration to those who have been dealing with pain and loss.

In the month of June 2020, I was appointed formally by the Hachinohe Overseas Trade Promotion Board to assist in the promotion of Hachinohe City in its plan to boost its economy and to raise awareness of this city globally. Since then, I have been an active participant in its endeavor to champion its primary industries and to help the city establish ties outward by connecting these industries with potential partners. To date, I have consulted with esteemed officials and leaders of their fields in Hachinohe and have embarked on several productive discussions henceforth. It has been a stimulating year for everyone.

The global pandemic has brought about change. Travel plans have been stalled, crossing borders have never been more testing and nationwide events, brought to a complete standstill. There was a period of darkness during the essential phase we all have come to know as the period of lockdown with an absence of activity and movement. During this time, there were moments of panic and many experienced bouts of fear.

Today, we resume life, but we remain cautious. We revisit challenges and work to tackle issues that have caused disruption. We must refocus and prioritize. We rise above. As a prosperous city, we will continue to build on our strengths and add value to our relationships. We should enable others to grow as we aim to thrive in various sectors. The international trading platform is still a promising arena and I am confident that we can strengthen established ties and forge new ground.

The food industry remains a primary industry. The global pandemic has since affected many established businesses. In Singapore and across Asia, the lockdowns initiated across countries have also severely impacted those in the food and beverage industries. In Singapore, restrictions demanded that all major food operators ceased operating and only essential visits to supermarkets were permitted with social distancing guidelines. Many households began to stock up on their daily essentials and increased canned food sales testified to an upward rise in canned food consumption. Even though the economy has adjusted itself and reopened in several stages over the past few months, the second and third phases of the Singapore's circuit breaker also witnessed a rapid increase of food delivery services and the reliance on such services continues to flourish.

I strongly believe that we can play an important role in helping economies cope better by bridging our technological know-how and showcase Japan's expertise in quality food processing. The perception of Japanese food and Japanese canned food remains favorable, attributing to its high quality and food safety standards. This recognition extends to Japanese dried foods, Japanese 'smoked' food products and also frozen food products. It is largely observed that made in Japan food products continue to appeal to a wide range of consumers globally. In the areas of preserved and canned foods, there is now increased opportunity to reach out to a global society whose lifestyle and eating habits of its consumers have all changed drastically in the last year. We must capitalize on this growing demand and activate our channels. It is now imperative that we aim to educate consumers and distinguish ourselves. We must aim to add value and remain competitive while promoting our brands and products.

I look forward to working with key partners, food producers, food processing companies, key manufacturers as well as established brand owners wishing to look outward, expand their businesses, and make room for progress and creativity. We should all rethink the way we work, live and play. With this in mind, I hope that we can cooperate well by joining our hands and hearts to make the world a safer and better place to live in for everyone alike. Thank you for your time and I wish all readers and citizens a successful and prosperous new year!

オンライン商談会を開催 ～ASEAN向け通年マッチング 支援事業

文／Year-round ASEAN oriented matching support service 実行委員会 事務局員 くどうやまと 工藤大和

今号では、昨年10月末に開催したオンライン商談会について御紹介します。

当実行委員会では、例年海外バイヤーを八戸市に招き商談会を開催していますが、今回は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い国内外の移動が困難なため、オンラインに切り替えて商談会、またその準備としてオンライン模擬商談を実施しました。

昨年初めからの新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、皆様も会議、打ち合わせ等オンラインの機会が増加していることと思いますが、オンラインでの商談会是对面よりも相手に意図が伝わりづらい等の課題があるため、商談会前に参加企業のスキルアップを目的に企画したものが「オンライン模擬商談会」になります。

講師は、北米、欧州、アジアを中心に世界20か国以上で業務従事経験があり、ジェットロ新輸出大国コンソーシアムエキスパートで英文カタログ・プレゼンテーション資料作成指導等を得意分野とする株式会社ラボラトリーズ 代表取締役兼CEOの中高英明様に依頼し、講師との模擬商談の後、フィードバック、アドバイスを受けております。「画面共有する資料は写真を多くする等、ビジュアル面の工夫が必要である」、「一夜干しやしめさばの「しめ」等、外国人にイメージが湧かないものは、説明の言い回し、方法を検討し、食べ方の提案とともに日本人のイメージをうまく伝える工夫が必要である」等様々な実践的なアドバイスをいただきました。

本番のオンライン商談会は10月26～28日に八戸プラザホテルを会場として開催しました。今年度事業では、新たにシンガポールに

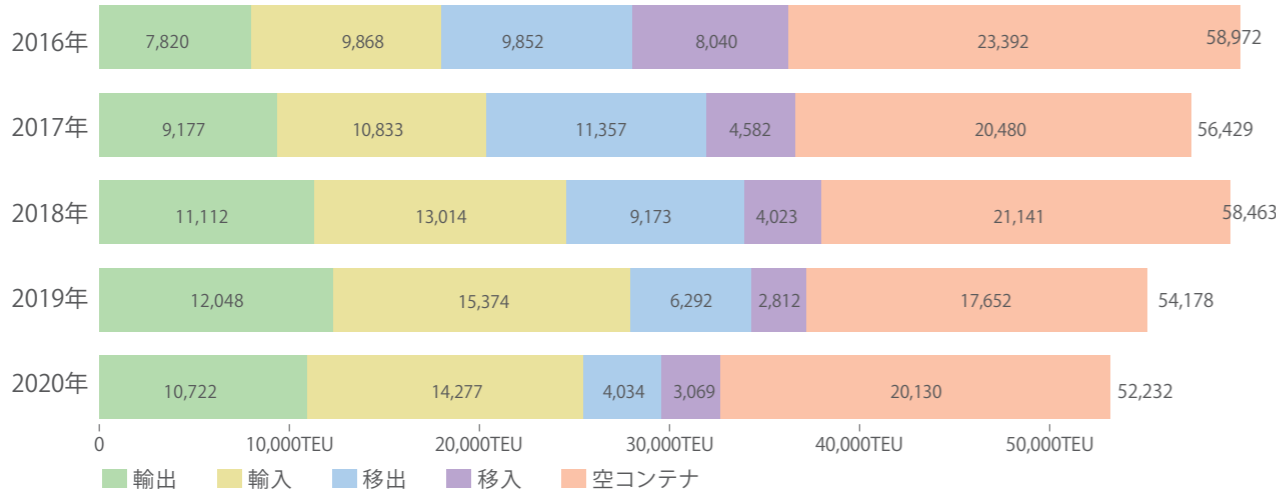
対しても本格的なアプローチを開始しており、バイヤーはベトナム5社、シンガポール4社、国内バイヤー2社の計11社となりました。参加事業者は水産加工品や農産加工品、菓子類、日本酒等の八戸市10社、三戸町1社、おいらせ町2社の計13社となっており、全54商談、72商品以上について活発な商談が展開されました。今回は、オンラインであっても商材を実際に確認して商談してもらうため、マッチングの上、事前にサンプルをバイヤーへ輸送しましたが、商談においてはバイヤー側から多くの見積依頼等が寄せられており、確度の高いマッチング・商談に繋がったものと思われます。実行委員会では、今後も引き続き参加事業者へのフォローアップに努めて参ります。

ベトナムをはじめとする東南アジアへの販路拡大に関心のある県内事業者様がおりましたら、実行委員会事務局の八戸市商工課（0178-43-9244）にお問合せください。



2020年八戸港コンテナ貨物取扱量統計(速報値) (単位:TEU)

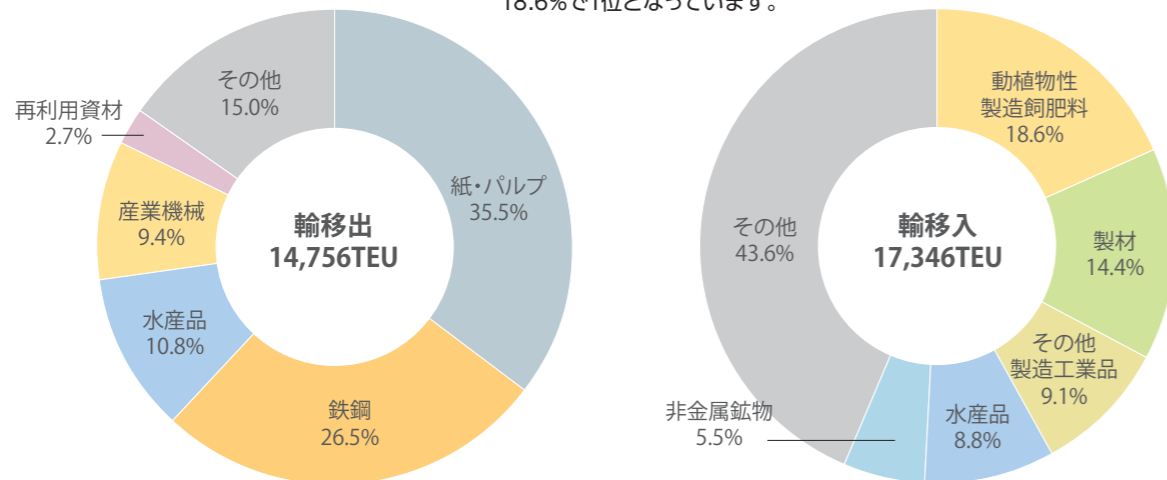
取扱量の推移



※TEUとは、コンテナ船の積載能力を示す単位で、1TEUは20フィートコンテナ1個分を示します。コンテナを単純合計数で表示する代わりに、20フィートコンテナ1個を1、40フィートコンテナ1個を2として、コンテナ貨物量をこの数値の合計で表示する計算方法です。

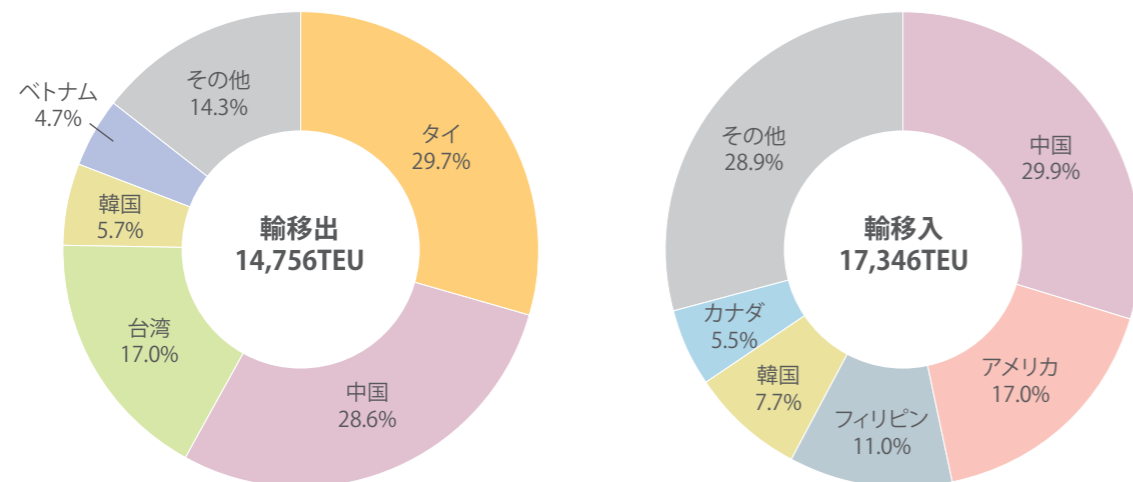
2020年 コンテナ貨物品種別内訳

2020年のコンテナ貨物の品別内訳(コンテナ個数での割合)を見ると、輸移出では紙・パルプが35.5%で1位、輸移入では動植物性製造飼肥料が18.6%で1位となっています。



2020年 コンテナ貨物国別内訳

国別の内訳をみると、輸移出はタイが中国を抜いて29.7%で1位、輸移入は昨年に続き、中国が29.9%で1位となりました。



※端数処理の関係で合計は100になりません。

世界とともに生きる視点



文/ジェトロ青森貿易情報センター 所長 木村 慶一

海外との往来が再開されても、従来通りには戻しにくい。互いに訪問し合って信頼を得てきた、既存の関係を拡充する以外に、新規の海外販路開拓に繋げられる術はないのか。八戸市や県等自治体からの支援も頂きながら、ジェトロでも県産品輸出拡大に向けて、「どこでもジェトロ～海外行かず海外展開」を謳いつつ、オンラインでの商談支援を頻繁に行っている。貿易実務講座や相談も無料だ。<体系的に学べる有料のオンライン貿易実務講座もある: <https://www.jetro.go.jp/elearning/>>

Japan Streetと称し、オンライン上に海外へ提供できる日本の商品カタログを展開、日本商品を実際に見てくれるジェトロ海外事務所推薦のバイヤーに参照して貰う取組も2021年1月末から始まっている。日本企業側は全世界の会員バイヤーに見せる商品を無料で掲載できる。バイヤーから見積・商談依頼があれば、ジェトロよりお繋ぎする。

従来のJapan Mall事業は海外60以上の提携サイトで、商品紹介から成約後の販促支援までを国地域別限定で展開している。販促の支援を受けたい場合や逆に国地域別の代理店・販売者がすでに決まっている場合は、前者Japan Streetは全世界向けのため、後者Japan Mallでの出品をお勧めする。前者は立ち上がったばかりだが、いずれも日本の登録企業2千社、商品数は2万点規模になる。

コロナ禍で、バイヤーから求められる商談の仕方も変わった。BtoCでもオンラインショッピングの拡大やキャッシュレス決済利用の増加など、PC/モバイルのオンライン活用率が格段に上がった。

海外取引関連は、ネットやウェビナーで必要情報を収集、オンラインで商談、メールでフォローといった商流構築が主流となり、リアルな面談や電話faxに頼ったやり方だけでは通用しなくなった。従来通りのやり方にこだわり過ぎていないだろうか。輸出(関心)企業さんにもご自問頂きたい。

輸出の本質は、その地ではありえない商品を相手が見える価格で提供することにある。人口減少が続く国内市場において、類似品でしのぎを削って、短期的なキャッシュフローは得られるにせよ、現在78億人で毎年8千万人増え続けているペースの世界人口に対し、中長期的にどう攻めて行けるのか、どう世界と渡り合っていくか。自社商品の価格に合った市場はどこか。

コロナ禍で通信手段もより活用されやすくなってきている中で、これほど海外ビジネスの敷居が低くなったことはないだろう。次世代を担う人材とともに、[輸出]という海外の活力を取り入れる作業を通して、自社の海外販路開拓のやり方を見直す機会も与えられている。



Japan Streetや Japan Mallを上手く活用して、コロナ禍での輸出促進につなげるのじゃ!

日本貿易振興機構 (JETRO)
青森貿易情報センター
〒030-0802 青森市本町1-2-15 5階
Tel. 017-734-2575 Fax. 017-773-2877